

# すてきなあなたへ

編集発行：宮ノ台女性井戸端会議

連絡先：佐倉市宮ノ台4-26-8

Tel&amp;Fax：043-461-7004

## 皇帝ダリア

### ～花の思い出 いまむかし～

昨秋、稲毛の花の美術館で、「皇帝ダリア」に出会った。またの名を「木立ダリア」ともいう。どちらもすてきな名前ではないか。大輪ながら、気品にあふれていた。私にとっての思い出のダリアは「ポンポンダリア」。空襲による焼け跡のバラックで店を再開した父、隣地との狭い空き地に咲いていた花、母の水やりを手伝ったが、埃っぽい花という印象だった。店の前の通りには、馬車が時たま通っていた、ウソのような東京の副都心。我が家の地主さんの奥さんが馬糞を集めて、畑の肥料にすると話していたし、いたずら好きのYちゃんが、荷台の後ろにぶら下がって、気づいた御者のおじさんに怒鳴られていたのを覚えているから、ほんとうのことだったのだ。

アサガオ、マツバボタン、ヒャクニチ草、テッポウユリくらいしか知らない貧しい花体験であった。当時の遊びは、缶蹴り、石蹴り、水雷艦長、ゴムダン、縄跳び、アンタガタドコサ、だるまさんが転んだ、花いちもんめ、グリコ、馬跳び・・・などの外遊び、ずいぶん遠くの友達が集まってきて、日が暮れて、母親が呼びに来るまで遊んでいた。ままごと、ぬりえ、きせかえ人形、家族合わせなども、家の中で遊んだ記憶がない。どの家もそんな住宅事情ではなかったのだろう。もっぱら空き地や軒下にゴザを敷いて遊んでいた。夜、停電が長引くと、店の前の露台に、大人も、子どもも集まって、電気がつくのを待つのがだった。少し高学年になると、自転車の覚えたては三角乗りだったが、ずいぶん遠くまで乗り回した。少女雑誌や学年雑誌の回し読みも始まった。小学校に図書室などなかったし、ピアノが置かれたのが何年生の時だったか、楽器と言えば、オルガンと木琴くらいしか知らなかった。音楽の宿題では、紙鍵盤を使った。

夏祭りが復活して、隣の病院跡の空き地に粗末な舞台が生まれ、のど自慢や盆踊りで盛り上がった。ゆらゆら風に揺れるスクリーンでの野外映画会も楽しみであった。わが家でもバラックから建て直しをすることになって、家の脇のコスモスが棟梁のMさんに踏み荒らされたときの悔しかったことなどを思い出す。

現在、身近なめぐりの花と言えば、鉢から地植えにしたアジサイ、クレマチス、アマリリスが、手入れもしないのに、毎年、立派な花をつけている。ツツジ、ヤマボウシ、キンモクセイ、夏椿、紫モクレンなどが、季節の訪れを知らせてくれる。庭のタンポポ、イヌノフグリ、ハハコグサ、オドリコソウなどの雑草にも悩まされるが、ネジバナだけは、ついつい摘んではコップに挿すのが習いになった。

散歩の途中で、百合のハウスを持つ農家からカサブランカを買ったのがきっかけで、その立派さに、お祝いや不祝儀にも、カサブランカを贈ることが多くなった。

花の思い出はめぐりにめぐる・・・。

## 雪のあとは、5月の陽気、井野の辻切りは

節分の前だというのに、5月の陽気だったようだ。散歩のついでに、井野の辻切りの大蛇にごアイサツと思って、井野本村に入る。工事中だった井野会館はすっかり出来上がっていた。周辺の樹木はだいぶ伐られたのだろうか、あたりは明るく、竹林ばかりが目立つようになり、会館沿いの斜面はコンクリートで固められていた。北部調整池へ下りきったところの辻切りの大蛇がみあたらないではないか。もしやと下ってきた坂を振り返ると、会館前の桜の高木に、藁の大蛇が村を睥睨していた。私のカメラでははっきりしない。もう一枚は、集落のお屋敷の一つ、その入り口で家を守る「小辻」である。

毎年1月25日に新しい辻切りが掲げられる。いわば魔よけと豊穰の願いを込めての行事だが、集落をめぐる八か所の辻、かつての村の出入り口の樹木に絡む大蛇。私が見上げたのは三番の辻切りだったらしい。(2月2日記)



上：井野会館前の桜の巨樹の上に  
右：畑の奥は梅林らしい



## 佐倉市の来年度予算説明会に参加して

～社協への疑問が噴出～

昨年12月23日、来年度予算の説明会が開催されました。五会派7人の市議も顔を見せましたが、佐倉市からの説明要員の職員の多さにはびっくりしました。

私たち市民も自分たちの収めた税金がどう使われるのかに、もっと関心を持たねばと思いました。という私も昨年からしか参加していません。今年は去年より少なくても参加者は30人余り。それでも、全体会、分科会で、多くの疑問点が浮き彫りになりました。

その一つが、社協の会費の集め方で、かなりの質問が集中したのです。みなさんの自治会では、社協の会費はどのように集められ、拠出されているか知っていますか。当日の参加者や友人たちの話を聞いていると、ほぼ、つぎのように分かれるようです。

- ①自治会財政から会員数分をまとめて拠出する
- ②会員数分には満たないけれど、一括して一定金額を拠出する
- ③班長さんが500円の領収書をもって各戸集金して拠出する

社会福祉協議会という一社会福祉法人の民間団体への会費が、なぜ自治会から当たり前のように、収められているのでしょうか。そう考える人たちの中に、勇気ある人たちがい

ました。滋賀県大津市の希望ヶ丘自治会の住民5人。自治会の年会費に、共同募金会、社会福祉協議会、日本赤十字社などへの会費及び寄付分として2000円を上乗せして集金するという総会決議の無効を求めて、自治会役員を提訴しました。大津地裁は住民の請求を棄却しましたが、大阪高裁では自治会の決議を無効とする判決を言い渡し、2008年4月3日、最高裁は上告を棄却、大阪高裁の判決が確定したのです。この自治会でも、各種募金をする人・しない人まちまちで、役員の集金する負担が大きいからというのが上乗せ提案の理由だったそうです。大阪高裁の判決は次のように述べています。

「各人の属性、社会的・経済的状況等を踏まえた思想、信条に大きく左右されるものであり、仮にこれを受ける団体等が公共的なものであっても、これに応じない会員がいることは当然考えられるから、会員の募金及び寄付金に対する態度、決定は十分尊重されなければならない。したがって、そのような会員の態度、決定を十分尊重せず、募金及び寄付金の集金にあたり、その支払を事実上強制するような場合には、思想、信条の自由の侵害の問題が生じ得る。もっとも、思想、信条の自由について規定する憲法19条は、私人間の問題に当然適用されるものとは解されないが、上記事実上の強制の態様等からして、これが社会的に許容される限度を超えるときには、思想、信条の自由を侵害するものとして、民法90条の公序良俗違反としてその効力を否定される場合があり得るというべきである。」

上乗せや自治会の一括拠出は、事実上の寄付の強制であり、社会的に許される限度を超え、思想、信条の自由を侵害するものとして公序良俗の反し、自治会決議は無効と判断したのです。この最高裁決定に、全国社会福祉協議会や日本赤十字社はかなりあわてました。全社協は、2008年4月30日付で全国社会福祉協議会に「社協会費等の納入方法に関する考え方について」という通知を出しています。「自治会費と社協会費を一括で集めることはできるのか」の質問には次のように答えよ、という想定問答もありました。社協会費納入の協力を自治会に求め、社協会費を自治会費と一括して集める方法を選択すること自体に問題はないことを前提にして、次のように説明しています。

「自治会費と一括して会費を集める場合、住民に〈自治会に加入していれば社協会費も支払わなければならないという誤解を与える可能性〉も否定できない。このため、社協会費納入が任意であることを明示したり、社協会費用専用の封筒を用意するなどの工夫が必要である。(中略)社協会費等会費・寄付金の納入は、あくまで任意であることを住民に理解していただける方法にするよう、自治会役員等に十分説明していくことが重要である」

かなり、苦しい説明です。皆さんの自治会では、「任意性が担保」されていますか。ちなみに筆者の自治会では、寄付するか否かの自由、金額の自由を保つため、穴をあけた集金袋の手渡し回覧を10年前から実施しています。会費の寄付希望者は500円を入れた小袋に記名して、その集金袋に入れますが、とくに混乱もなく定着しています。

社協には市から9000万円近い人件費補助があり、市職員に準ずる待遇を受け、1億数千万円の投資や基金も留保されている中で、もう一度「募金」「ボランティア」の意味を考えてみたいものです。身近な体験や情報があればお寄せ下さるようお願いいたします。(M.U)

# 菅沼正子の映画招待席 39

## 東ベルリンから来た女

—自由とはどういうものなのか—

フランスの「パリ・マッチ」誌は「サスペンスと疑惑の見事な手綱さばきで、鉄のカーテンの向こう側の私たちは息つくこともできない」と評した。2012年のベルリン国際映画祭で監督賞を受賞し、2013年のアカデミー賞外国語映画賞ドイツ代表で出品されたが、本選ではノミネートから外れた。

ベルリンがまだ東と西に分断されていた時代の1980年の夏。東ベルリンの大病院に勤務していた女医のバルバラ（ニーナ・ホス）が、バルト海沿岸の小さな町の病院にやってくる。西側への移住申請をしたため、この地に左遷されて来たのだ。

冒頭からサスペンス・タッチ。電車に乗っている女。やがて女は緑豊かな郊外を自転車で走り抜ける。たどりついたビルの前庭。「あいつだ」と2階のガラス窓越しから指さす白衣の男2人。—ここまでせりふは全然ない。やがてわかるのは、この女が東ベルリンから左遷されて来た女医のバルバラであり、白衣の男はこの病院の医師アンドレ（ロナルド・ツェアフェルト）、もうひとりとは秘密警察の諜報員である。初めから彼女は監視されているのだ。自宅まで送るというアンドレの好意に甘えてみたら、なんと彼はバルバラの自宅への道を、教えなくても知っているではないか。

だれも信じられない。だれにも気を許すことはできない。何が真実なのか。ここに来てからのバルバラはまったくの孤立無援。緊迫した孤独感だけ。外出から戻れば全裸のボディチェック。肛門も陰部もだ。この執拗なまでの屈辱的なシーンにはびっくり。それでも彼女は医師としてのプライドを保ち、情熱を燃やす。西ベルリン在住の恋人ヨルク（マルク・ヴァシュケ）とデンマークへの逃亡計画だけがわずかな希望なのだ。

病院にはさまざまな患者が運び込まれる。自殺未遂で搬送されてきた少年は、脳に血栓が見つかった。矯正収容施設を脱走して行き倒れになっていた少女は、妊娠している。バルバラは女医として以上の心のケアまでつくす。そういうバルバラに心を開いた少女は「耐えられないの。施設から逃げたい。この国から逃げたい」と、バルバラの胸の中で泣き叫ぶ。しかし彼女個人の力では、これ以上のことはできない。個の微力さを噛みしめながら、医師としての責任感が増していく。はたして恋人との逃亡劇は成功するのか？……

原題は「Barbara」。主人公の名前を冠しているだけあって、バルバラを演じるニーナ・ホスが抜群の演技を見せる。なんとクールな女優！。全編に漂う無機質な空気感の中で、彼女の存在がそれをいつそう際立たせる。稟として、清楚で、知的で、長身でスリムなボディにカジュアルウェアさえ魅力的。それでも時折やってくるヨルクとの密会では、思いっきり女の顔を見せる。ドイツ映画は日本ではポピュラーでないため、ドイツではトップ女優でも、ニッポンではあまり知られていないだけに、先入観にとらわれないからいい。彼女の一挙手一投足の演技が何を意味するのか、まるでサスペンス映画を見ているような感覚。医師としての信念、人間としての誇り、胸を刺す勇気のラストシーンに、観客の心は解放される。自由、自由と、自由を当然の権利としている現代ではあるが、もっと自由の本質を知り、噛みしめ、つかみえた自由を大切にしたいものだ。機会があれば「善き人のためのソナタ」（2006年）「善き人」（2008年）の鑑賞をすすめる。

（1月19日より、Bunkamura ル・シネマほかにて全国順次ロードショー）